

ライフイベントの費用と資金調達に関する調査＜要約＞

結婚と住宅取得は自己資金に加えて親からの援助も多い！？

はじめに

結婚や出産、子どもの就学や住宅取得など、人生の節目で迎えるライフイベントは多額の費用を要する。従って、早い時点からの計画や資金準備への取組みが求められる。また、関連する業界にとっても、利用者の計画や予算等の情報を収集した上で対応することが、事業の成否に大きな影響を及ぼすことになる。

そこで本レポートでは、ライフイベントの中でも特に多額の費用を要する結婚、住宅取得、教育にかかる費用と調達方法・金額について、熊本県内在住者を対象に調査を実施し、熊本の生活者のライフイベントに関する支出や資金調達についての考察を行う。

■ 調査結果の概要

- ・ 結婚にかかった費用の総額（結納、挙式・披露宴、結婚指輪、新婚旅行等の平均金額の合計）は 293 万円となった。
- ・ 結婚費用の調達については、自己資金を準備している割合が 7 割となっているものの、親等からの援助を受ける割合も 4 割に上る。
- ・ 住宅の取得については、最も多い「注文住宅」の場合、費用の総額は土地・建物で“2,500～4,500 万円”が一般的。「マンション」の場合は“3,000 万円以上”。
- ・ 住宅取得費用については、全体の約 9 割が借入れを行っており、加えて 4 割弱が親等からの援助を受けている。
- ・ 教育費については、熊本県外の大学・専門学校の場合は大半が“500 万円以上”となり、そのうち“1,000 万円以上”が約 4 割を占める。

◆ 調査の概要

- ・ 調査対象 熊本県在住の 20～50 代の既婚男女 800 人
- ・ 調査時期 平成 24 年 7 月 5 日（木）～7 月 10 日（火）
- ・ 調査方法 調査会社登録モニターへのネット調査（調査会社：㈱マクロミル）
- ・ 有効回答数 765 人

		男性	女性	合計
年齢	20代	27	97	124
	30代	160	100	260
	40代	96	93	189
	50代	98	94	192
居住地	熊本市	222	226	448
	玉名・山鹿・菊池・阿蘇地域	59	71	130
	宇城・上益城・八代・芦北地域	75	64	139
	人吉・球磨地域	9	7	16
	天草地域	16	16	32
合計		381	384	765

備考：居住地は熊本県の地域振興局単位に地域をまとめたもの

1. 結婚について

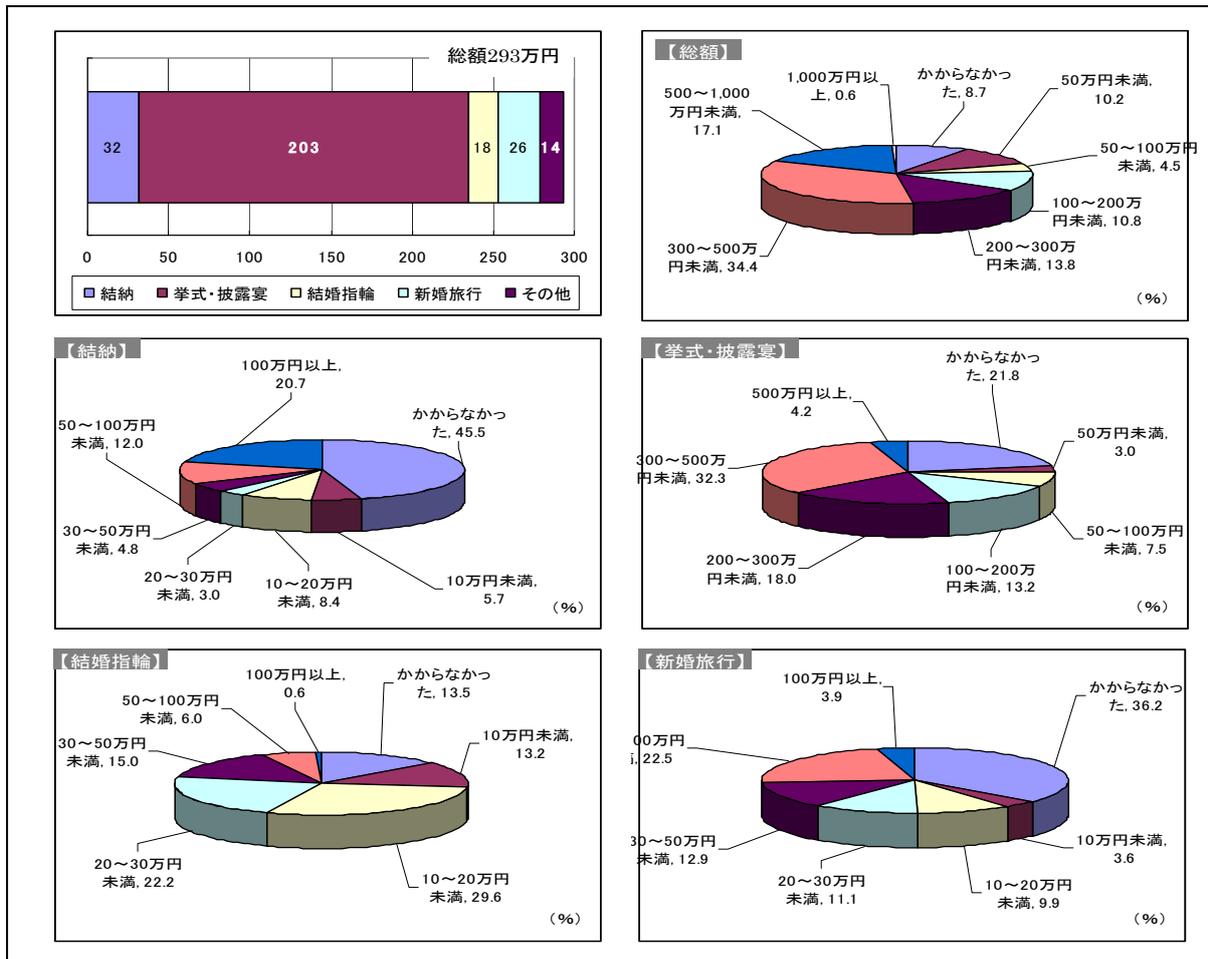
(1)費用の総額は平均 300 万円

結婚にかかった費用（本稿では「結納」、「挙式・披露宴」、「結婚指輪」、「新婚旅行」、「その他（仲人への謝礼、新婚旅行の土産等）」を指す）については、結婚後 10 年未満の回答者（334 人）を対象に質問した結果、かかった費用の総額（各項目の平均金額の合計）は 293 万円となった。その内訳をみると、「挙式・披露宴」が 203 万円（最高金額 1,200 万円）で最も多く、以下「結納」32 万円（同 150 万円）、「新婚旅行」28 万円（同 300 万円）、「結婚指輪」18 万円（同 300 万円）、「その他」14 万円となっている。結婚にかかる費用の総額の約 2/3 を「挙式・披露宴」が占める結果となった。

金額の分布を項目別にみると、結納では「かからなかった」が 45.5%で最も多かった。また、挙式・披露宴では「300～500 万円未満」が 32.3%で最も多かったが、「かからなかった」が 21.8%で二番目に多く、挙式・披露宴そのものを行わないカップルが存在していることがうかがえる。結婚指輪では「10～20 万円未満」が 29.6%で最も多く、二番目に多かった「20～30 万円未満」の 22.2%と合わせると過半数となり、「10～30 万円」が相場のようなのである。新婚旅行については、意外なことに「かからなかった」が 36.2%で最も多かったことは驚きであったが、それを除くと「50～100 万円未満」が 22.5%で多くなっている（図表 1）。

図表 1 結婚にかかった費用の総額と項目別分布

(n=334)



(2)かける費用は、地域で若干の差あり

結婚にかかった費用の総額を地域別にみると、熊本市の回答者が圧倒的に多かったことから、熊本市は全体とほぼ同様の傾向となっている。他の地域をみると、玉名・山鹿・菊池・阿蘇地域では、「300～500万円未満」が42.9%で全体を8.5ポイント（以下、p）、「500～1,000万円未満」が19.6%で全体を2.5p、いずれも上回っており、比較的結婚にかかる費用が多くなっている。宇城・上益城・八代・芦北地域では「300～500万円未満」が30.4%で全体を4.0p、「500～1,000万円未満」14.3%で全体を2.8pいずれも下回った。一方で「50万円未満」が14.3%で全体を4.1p、「50～100万円未満」が7.1%で全体を2.6p上回っており、相対的に結婚にかかる費用が少なくなっている（図表2）。

(3)5人に1人は親からの援助が「100万円以上」

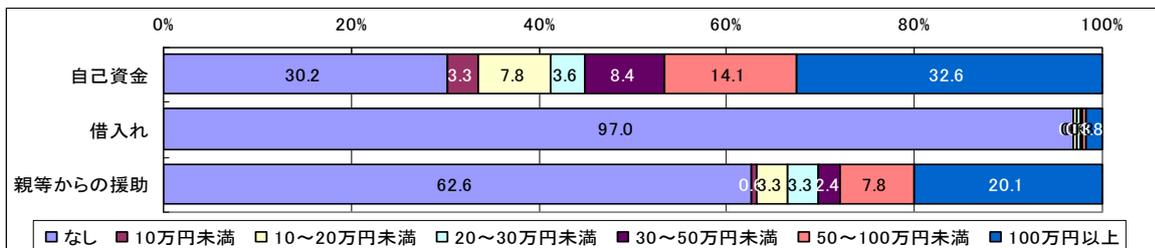
結婚費用の調達方法と金額について、まず自己資金をみると、「100万円以上」が32.6%で最も多かったが、次いで「なし」が30.2%で多くなっており、1割弱存在している「（費用が）かからなかった」や、後述する「親等からの援助」が反映した結果となった。親等からの援助については、「なし」が62.6%で最も多くなっており、3人に2人は“親に頼らないで”結婚している様子が見えるが、残りの3人に1人は親に依存しており、援助を受けている中では「100万円以上」が20.1%で最も多くなっているなど、“5人に1人はすべての結婚費用を親に頼っている”姿が見られる。また、借入れについては、ほぼ全部に近い97.0%が「なし」と回答しており、“結婚費用を借金する”ケースは、今回の調査結果からはさほどみられなかった（図表3）。

図表2 結婚にかかった費用の総額(地域別) (%)

	かからなかった	50万円未満	50～100万円未満	100～200万円未満	200～300万円未満	300～500万円未満	500～1,000万円未満	1,000万円以上
全体	8.7	10.2	4.5	10.8	13.8	34.4	17.1	0.6
熊本市(n=206)	8.7	10.2	3.4	13.1	13.6	34.0	16.5	0.5
玉名・山鹿・菊池・阿蘇地域(n=56)	10.7	8.9	5.4	3.6	8.9	42.9	19.6	0.0
宇城・上益城・八代・芦北地域(n=56)	7.1	14.3	7.1	10.7	16.1	30.4	14.3	0.0

注：「人吉・球磨地域」と「天草地域」は回答数が少ないため、図表に掲載していない

図表3 結婚費用の調達方法と金額



2. 住宅取得について

(1) 注文住宅で多い価格帯は「2,500～4,500 万円」

次に、住宅取得についてみる。対象となるのは、現在の住まいが“自己所有（配偶者所有を含む）の一戸建て住宅とマンション”に住む回答者（348人）である

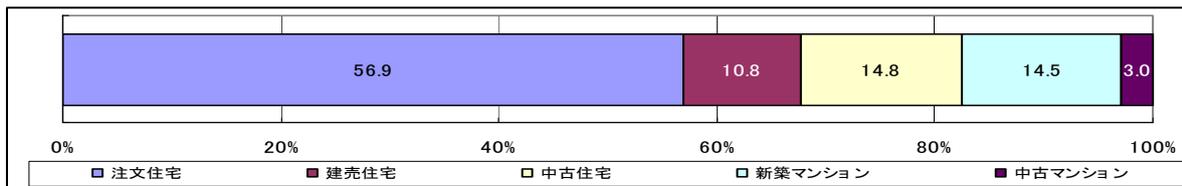
まず、住宅の種類については「注文住宅」が 56.9%で最も多くなっている。次いで「中古住宅」が 14.8%、以下「新築マンション」14.8%、「建売住宅」10.8%、「中古マンション」3.0%の順となっており、一戸建て住宅が全体の8割超となっている（図表4）。

住宅の取得費用をみると、注文住宅の建築費用では、「1,500～2,000 万円未満」が 29.6%で最も多くなっているが、「2,000～2,500 万円未満」が 25.4%となっており、“1,500～2,500 万円”で過半数となる 55.0%を占めている。注文住宅の土地購入費用では、「1,500～2,000 万円未満」が 30.6%で最も多いものの、「1,000～1,500 万円未満」も 29.9%と、ほぼ同じ割合となっており、合わせて6割を超える（60.5%）ことから、注文住宅の取得費用の総額は“2,500～4,500 万円”が多いものと思われる。

次に、建売住宅の取得費用をみると、「2,000～2,500 万円未満」と「3,000 万円以上」が、いずれも 28.1%で最も多く、次いで「1,500～2,000 万円未満」と「2,500～3,000 万円未満」が、いずれも 18.8%で続いている。また、中古住宅では、「1,000～1,500 万円未満」と「1,500～2,000 万円未満」が、いずれも 22.7%で最も多く、次いで「2,000～2,500 万円未満」18.2%、「2,500～3,000 万円未満」13.6%の順となっており、「1,000 万円未満」も 11.4%と他の種類に比べて多くなっている。

また、マンションの取得費用をみると、「3,000 万円以上」が 41.9%で最も多く、次いで多かったのは「2,000～2,500 万円未満」で 34.9%となっており、合わせると 76.8%となり、新築マンションの場合は、この価格帯が一般的となっているようである。中古マンションについては、回答数が少ないため参考値となるが「1,000～1,500 万円未満」が 44.4%、「1,500～2,000 万円未満」が 33.3%となっている（図表5）。

図表4 住宅の種類



図表5 住宅の種類別取得費用

(%)

	1,000万円未満	1,000～1,500万円未満	1,500～2,000万円未満	2,000～2,500万円未満	2,500～3,000万円未満	3,000万円以上
注文住宅・建築費用 (n=169)	4.7	11.8	29.6	25.4	14.2	14.2
注文住宅・土地購入費用 (n=144)	10.4	29.9	30.6	13.9	9.7	5.6
建売住宅購入費用 (n=32)	0.0	6.3	18.8	28.1	18.8	28.1
マンション購入費用 (n=43)	0.0	2.3	2.3	34.9	18.6	41.9
中古住宅購入費用 (n=44)	11.4	22.7	22.7	18.2	13.6	11.4
中古マンション購入費用 (n=9)	0.0	44.4	33.3	11.1	0.0	11.1

注：網掛けは、住宅の種類ごとの最も多かった価格帯

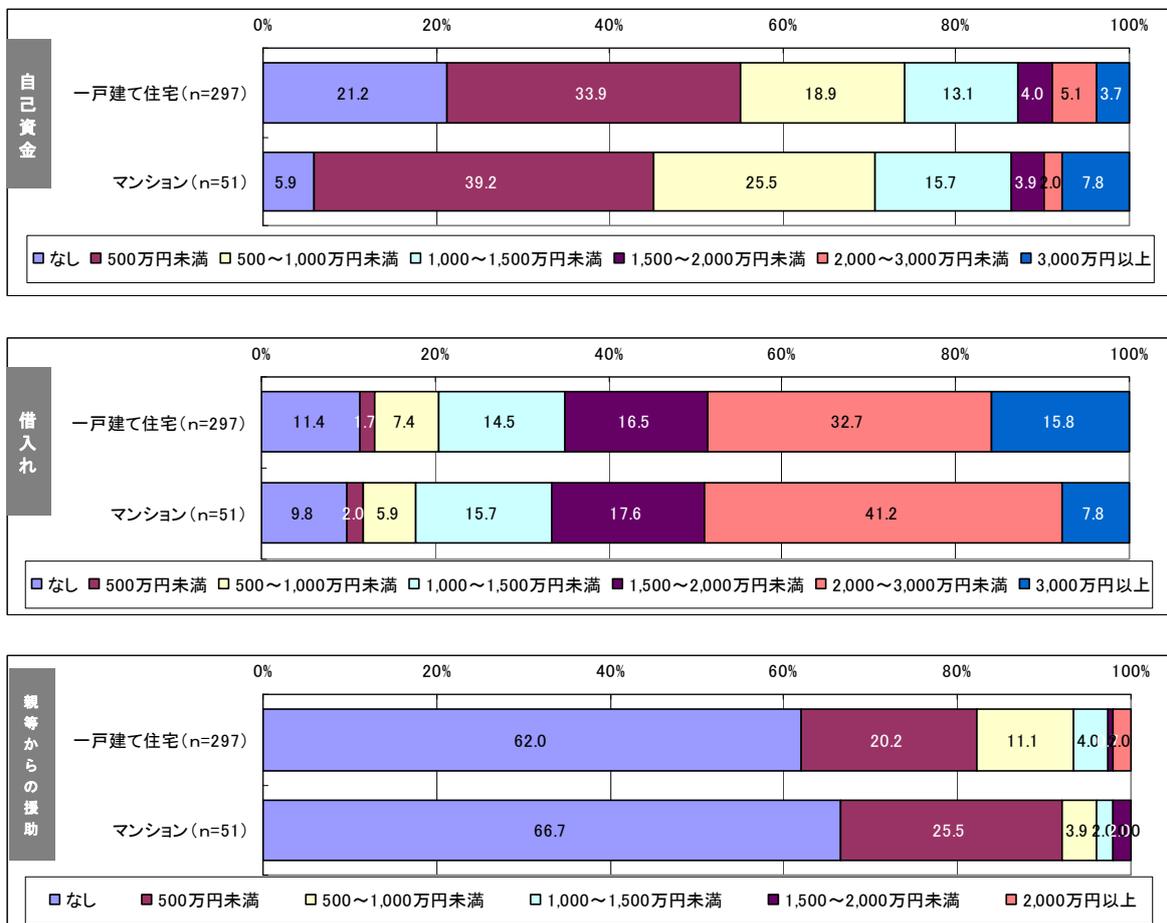
(2)4 割程度が「親の援助」で住宅取得

住宅取得費用の調達方法と金額についてみると、自己資金は、一戸建て住宅の場合、最も多かった「500万円未満」の33.9%をはじめ、全体の約8割(78.8%)が自己資金を準備しているという結果になった。一方で、「(自己資金)なし」が約2割(21.2%)となっている。親からの資金援助等もあることから、“全額借入れ”とはならないものの、2割程度が自己資金なしで住宅を取得していることには驚かされる。マンションの場合は、一戸建て住宅と同様「500万円未満」が39.2%で最も多かったが、「(自己資金)なし」は5.9%にとどまっており、結果的にマンション購入者の9割以上は自己資金を準備しているようだ。

また借入れについては、「2,000~3,000万円未満」が、一戸建て住宅で32.7%、マンションで41.2%といずれも最も多かった。「3,000万円以上」の割合ではマンションの7.8%に対して、一戸建て住宅の場合は15.8%と大きな開きがあり、土地購入も含めた一戸建て住宅の取得にかかる費用の多さを裏付けている。

また、「親等からの援助」については、「(援助)なし」が一戸建て住宅で62.0%、マンションが66.7%となっており、全体の6割を超える人が援助なしで住宅を取得している。一方で4割弱は援助を受けていることになり、その金額はいずれも「500万円未満」が最も多くなっている。一戸建て住宅の場合は、マンションに比べて援助金額が多くなっており、「2,000万円以上」の回答も2.0%だった。これらのことから、一戸建て住宅の場合は、“親と同居”も少なくないものと思われ、その場合は親の援助が相当額受けられることから、自己資金がなくても住宅取得に踏み切るケースがあるのではないかと思われる(図表6)。

図表6 住宅費用の調達方法と金額

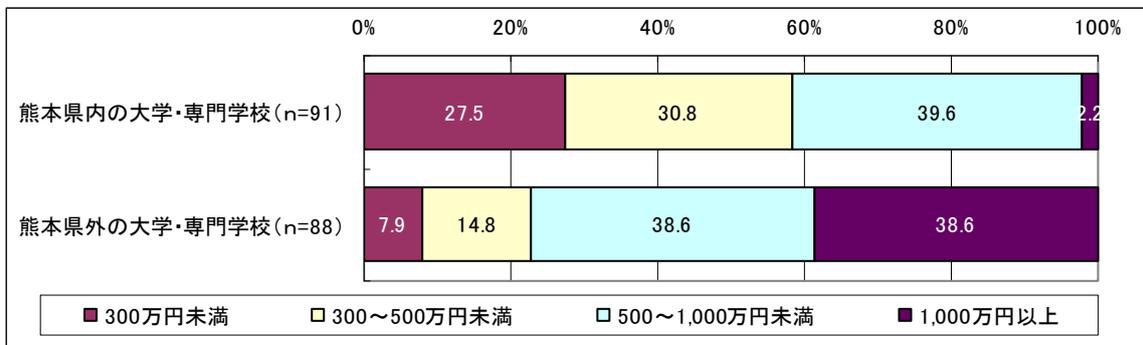


3. 教育費

(1) 県外の学校の場合、500 万円以上が必要

最後に教育費（授業料や住居費等の合計）についてみてみることにする。対象となるのは、“大学や専門学校に在学中、もしくは卒業された子ども”を持つ回答者（179 人）である。まず、在学中の教育費の総額をみると、当然のことながら大学・専門学校が熊本県内か県外かで大きく異なってくる。まず、熊本県内の場合は、「500～1,000 万円未満」が 39.6%で最も多く、次いで「300～500 万円未満」が 30.8%、「300 万円未満」が 27.5%と続くが、「1,000 万円以上」は 2.2%にとどまる。一方、熊本県外の場合は、「500～1,000 万円未満」と「1,000 万円以上」が、いずれも 38.6%で最も多く、以下「300～500 万円未満」が 14.8%、「300 万円未満」が 7.9%と続いている。熊本県外の学校に通わせる場合は、少なくとも 500 万円はかかると考えておいた方がいいようだ（図表 7）。

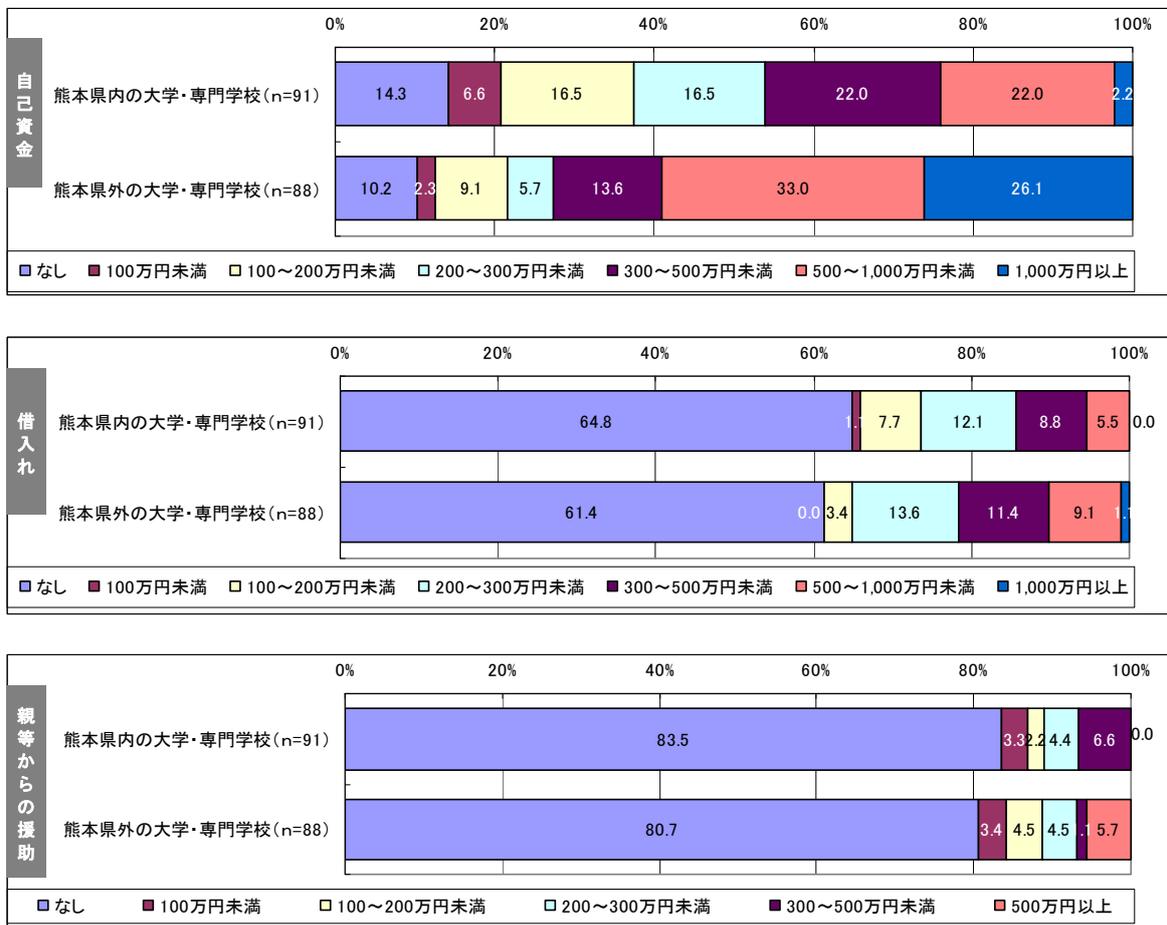
図表7 在学中の教育費



(2) 約 4 割が借入れを行う

教育費の調達方法と金額について、まず自己資金をみると熊本県内の場合は、「300～500 万円未満」と「500～1,000 万円未満」が、いずれも 22.0%で最も多く、次いで「100～200 万円未満」と「200～300 万円未満」が 16.5%となっている。一方、熊本県外の場合は「500～1,000 万円未満」が 33.0%で最も多く、次いで「1,000 万円以上」の 26.1%となっており、熊本県外の場合は自己資金を 500 万円以上準備している割合が約 6 割（59.1%）にもなる。また、借入れについては、全体の 4 割弱が行っており、その金額では「200～300 万円未満」が、いずれも最も多くなっている。一方で親等からの援助については、8 割超が「(援助) なし」となっており、教育費については、自己資金、もしくは借入れで賄うケースが多いようである（図表 8）

図表 8 教育費の調達方法



おわりに

今回は、結婚と住宅取得、教育というライフイベントの中でも、相対的に多額の費用を要するイベントについて、かかった費用や資金の調達方法等について、ネットアンケート調査を実施したわけだが、それぞれの項目について概観してみることにする。

【結婚について】

結婚については、まず「(費用が) かからなかった」、つまり挙式・披露宴も行わなかったと思われる割合が 8.7%と、1 割近くに上ったことが意外であった。もちろん、会費制の披露宴やパーティを行ったり、費用のかからない“人前式”を挙げるカップルも相当数存在すると思われることに加え、回答者全員が初めての結婚とは限らないことから（設問に「再婚などの方は一番最近の結婚についてお答えください」と表記している）、「(費用が) かからなかった」という人も、ある程度は存在していると想定された。しかしながら、それらを含めても 1 割近くが「(費用が) かからなかった」となったのは、披露宴や新婚旅行を省略し、婚姻届だけを提出するといった“ジミ（地味）婚”派が一定数存在していることの証左になるだろう。一方で、挙式・披露宴に 500 万円以上をかけるといった“ハデ婚”もわずかではあるが存在していることから、結婚にもさまざまなスタイルがあり、それぞれの価値観や個性に合わせた形態がとられていることがわかる。

また費用の調達方法については、「(自己資金) なし」で結婚する人が 3 割程度 (30.2%) 存在し、「親等からの援助」を受ける割合が 4 割程度 (37.4%) に上ることから、“結婚までは親の世話になるだろう”という層も少なくはなく、親としても子どもの結婚資金をある程度は準備しておく必要があるようだ。

【住宅取得について】

今回の調査結果では、一戸建て住宅の割合が 8 割を超え (82.5%)、圧倒的に多く、中でも注文住宅の割合が 6 割近く (56.9%) に上った。一方でマンションは 2 割以下にとどまっており、“戸建て志向”の強さがうかがわれた。取得費用をみると、土地の取得を含めた注文住宅の費用は 2,500～4,500 万円、新築マンションの場合は 3,000 万円以上が、いずれも最も多くなっており、やはり“人生で最大の買い物”であることは間違いないようである。

費用の調達方法をみると、借入れと親等からの援助の有無や金額については、住宅の種類ごとに大きな違いはみられなかったが、自己資金については「なし」の割合が、マンションの 5.9%に対して、一戸建て住宅では 21.2%と多くなったことは意外であった。本文中でも触れたが、一戸建ての場合は“親と同居”するケースがあると思われることから、自己資金分を親の援助で賄うケースが少なくないものと思われる。

【教育費について】

子どもが誕生した時から将来の教育にかかる費用を想定しながら、積立や学資保険等による備えに取り組む家庭が多いものと思われる。しかしながら、子どもが熊本県内の学校に進学するのか、県外の学校に進学するのかで、かかる費用が大きく異なってくることから、借入れを行うケースも少なからず存在している。特に、多額の費用がかかる熊本県外の学校に進学した場合には、300 万円以上の借入れを行った割合が 2 割を超えており (21.6%)、借入金返済の家計への負担は大きいものと思われる。